

房総の加曽利E式期前半の土器について

館 祐樹

はじめに

これまで房総における加曽利E式土器の細分は、ローマ数字（岡本・戸沢 1965）による細分が多く用いられており、ここでは、加曽利E I式（胴部の磨消縄文成立前）とE II式（磨消縄文成立～吉井城山類型成立前）のキャリパー形土器を中心に房総の加曽利E式の前半として取り上げる。

加曽利E I式と加曽利E II式の細分については、昭和40年～昭和42年に加曽利北貝塚で行われた調査から、貝層を介して加曽利E I式から加曽利E II式の型式変化が示されている（堀越ほか 1977）。

加曽利E I・II式の細分については、「埼玉編年」（谷井ほか 1982）ではE I式をIX a・IX b・X、（XI期をE I直後～磨消懸垂文発生時期とし）E II式（XII a・XII b）に細分している。

千葉県では1970年以降の大規模開発に伴う発掘調査により、中期集落が面的に明らかにされ、集落分析を行うにあたり、遺跡ごとに加曽利E I・II式の細分が行われている。

東・北長山野遺跡では、埼玉編年に対応させる形で5期に分類している（北長山野遺跡調査会 1990）。木更津市伊豆山台遺跡では、加曽利をE I（中峠～E I古・新）、E II（古・中・新）段階に細分し、集落変遷を3期に分類している（上守ほか 2000）。上守は松戸市子と清水貝塚の集落変遷を検討するにあたり加曽利をE I（中峠～E I古・新）、E II（古・中・新）段階に細分し、集落変遷を4期に分類している（上守 2005）。柏市小山台遺跡B区では、アラビア数字による細分が行われており、阿玉台IV式・勝坂式末期～E 1（古・新）、E 2（古・新）、E 2-3、E 3（古・中）の段階が相当すると考えられる（西川ほか 2019）（註1）。

加曽利E式期前半の各期の型式内容について

加曽利E I式を口縁部文様の変遷から3段階、E II式を胴部磨消し部の変遷から2段階に細分を行った。

加曽利E I式（古）段階 10a

把手を有し、口縁部には1～2本単位の隆帯によるクランク状・横S字状のモチーフが見られる。口縁部に縦位沈線を施すものも見られる。胴部には2～3本単位の直線と蛇行する沈線による懸垂文が施されるものがある。沈線によるものが多いが、隆帯によるものも見られる。地文の主体は縄文であり、撚糸地文のものは少ない。

加曽利E I式（中）段階 10b・10c

小型渦巻状の突起を有するもの多く、口縁部には隆帯による半渦巻状（古相）と渦巻状（新相）のものが見られ、棘状・剣先文が施されるものが多い。波状隆帯が施されるものも見られる。頸部無文帯を有するものが見られる。胴部懸垂文は、隆帯によるものは極めて少なく、沈線によるもの、また、懸垂文を施さないものも多い。地文は縄文によるものが主体となる。

加曾利E I式(新)段階 11a・b・c

口縁部は沈線による渦巻文で、長方形区画や長方形区画の一端が弧線化したもの、楕円区画等を区切っている。沈線により頸部を区画するものも見られるが、頸部内に縄文が残るものがある。胴部には2～3本単位の直線と蛇行する沈線による懸垂文が施される。

加曾利E II式(古)段階 12a

口縁部は前段階に続き、渦巻文により長方形や楕円の区画を区切っている。胴部は2～3本単位の沈線間の縄文を磨り消している。連弧文系土器・曾利式土器・大木式土器が伴うようになる。

加曾利E II式(新)段階 12b

波状口縁のものが見られる。口縁部は長方形区画が崩れ、楕円区画と渦巻文が入組むようになる。胴部は懸垂磨消帯が確立する。胴部に逆U字状の区画を施す土器も見られる。新相としては、口縁部の渦巻が弱く大型化し、楕円区画が主となる。胴部の磨消帯の幅が広がる傾向があり、土器自体も大型化する傾向がみられる。口縁部文様帯が形骸化し、口縁部を沈線により区画するのみのものや、大木8b式の影響を受け胴部に隆帯による渦巻文を施す土器も見られる。

註

(1) 加曾利E 1(新)を山形編年(山形1997)による、加曾利E式最初頭と加曾利E 2式の間置かれた東京都宇津木台遺跡D地区SI59、E 2(古)を加曾利E 2式前半に置かれた神奈川県当麻遺跡18号住居跡、E 2(新)をE 2式後半に置かれた神奈川県川尻遺跡J18号住居跡、加曾利E 2-3を神奈川県当麻遺跡72号住居跡の各段階に併行させている。また、E 3(古)式段階を長山編年による飯積原山遺跡E 3(古)段階、E 3(中)式段階を飯積原山遺跡E 3(中)段階に併行させている。

参考文献

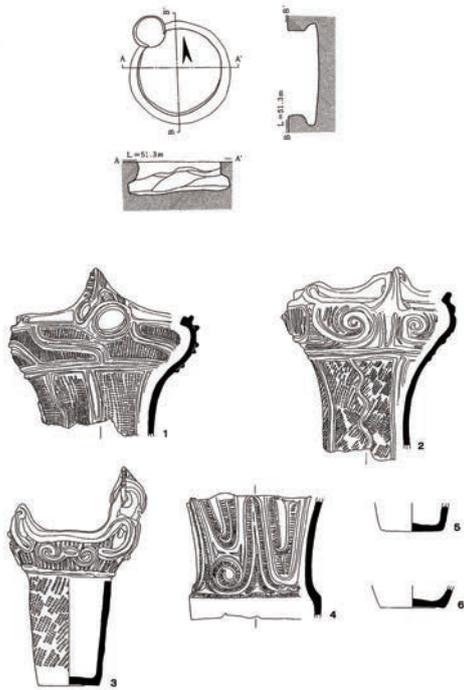
- 芹沢長介1962「千葉県千葉市加曾利貝塚」『日本考古学年報』11
- 岡本 勇1963「横須賀市吉井城山第1貝塚の土器(二)」『横須賀市博物館研究報告』7
- 岡本 勇・戸沢充則1965「縄文文化の発展と地域性 3 関東」『日本の考古学』II 河出書房新社
- 堀越正行ほか 1977「第7章 加曾利北貝塚の土器」『加曾利北貝塚』
- 谷井 彪ほか 1982「縄文時代中期土器群の再編」『研究紀要』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査調査事業団
- 北長山野遺跡調査会1990『東・北長山野遺跡』
- 上守秀明ほか2000「伊豆山台遺跡」『木更津市文化財調査集報』4
- 縄文時代研究プロジェクトチーム「神奈川における縄文時代文化の変遷VI—中期後葉期 加曾利E式土器文化期の様相その2 土器編年案—」『研究紀要』7 財団法人かながわ考古学財団
- 上守秀明 2005「下総台地における中期中葉から後葉期の拠点集落の様相—松戸市子和清水貝塚の空間構成から導かれる特性の予察—」『地域と文化の考古学I』明治大学文学部考古学研究室
- 西川博孝ほか2019「柏市小山台遺跡B区 縄文時代以降編」『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書15』調査報告第775集

挿図引用文献

- 千葉縄文研究会編2007『千葉縄文研究 別冊1 千葉における中期編年基礎資料 土器集成1』

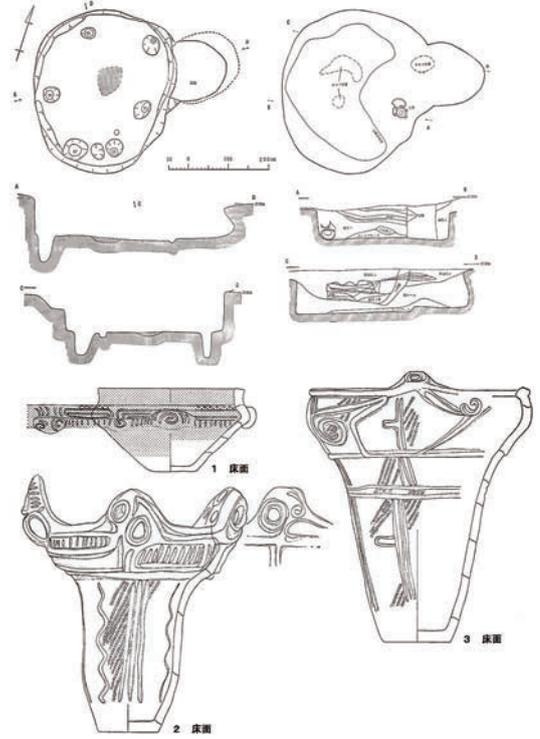
図版274
東庄町
神代夏方遺跡 SK8

1/2



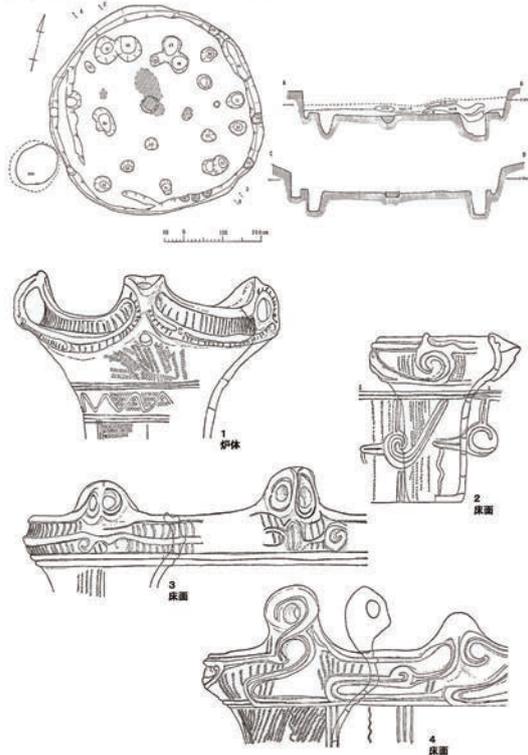
図版54
船橋市
高根木戸貝塚 34号住居址

1/2



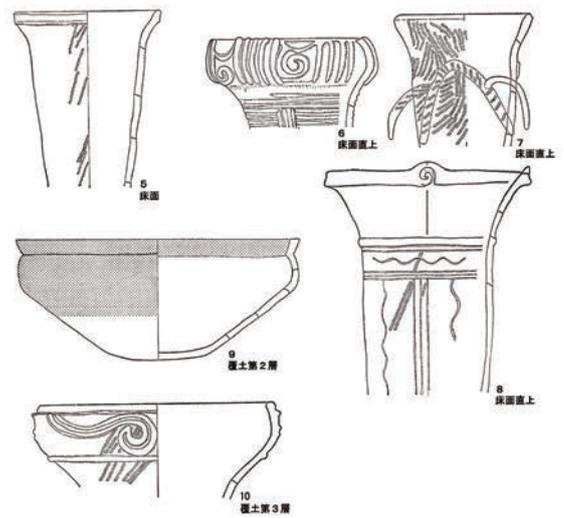
図版56
船橋市
高根木戸貝塚 43号住居址

1/2



図版57
船橋市
高根木戸貝塚 43号住居跡

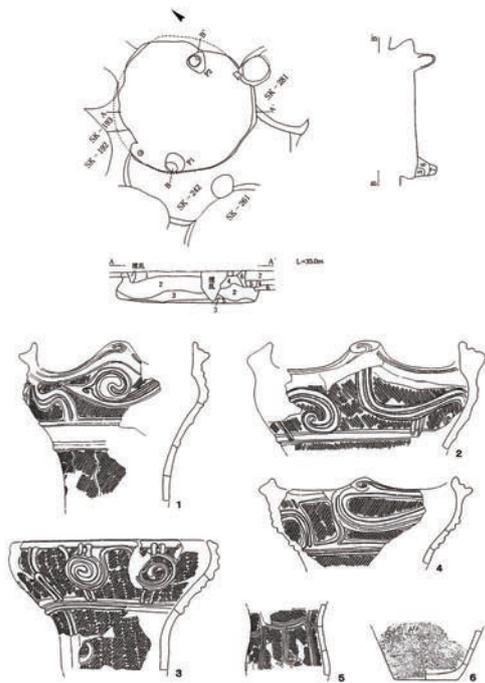
2/2



第1図 加曾利E I (1)

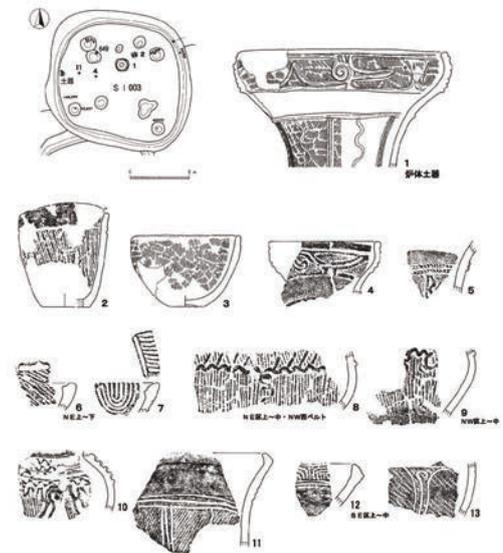
図版245
神崎町
原山遺跡 SK-241

1/3



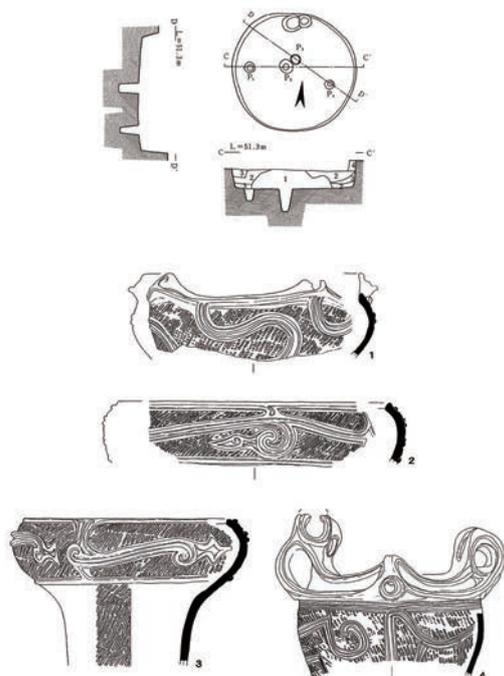
図版136
木更津市
伊豆山台遺跡 S1003

1/1



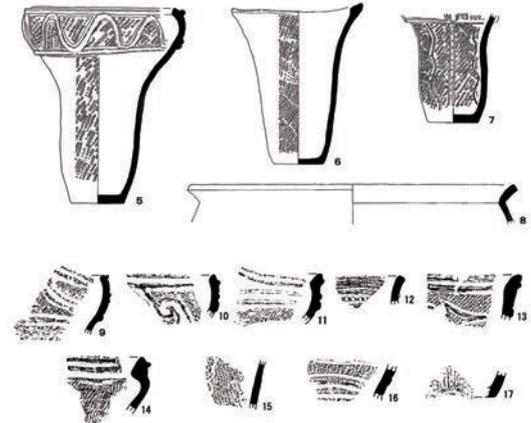
図版276
東庄町
神代夏方遺跡 SK30

1/2



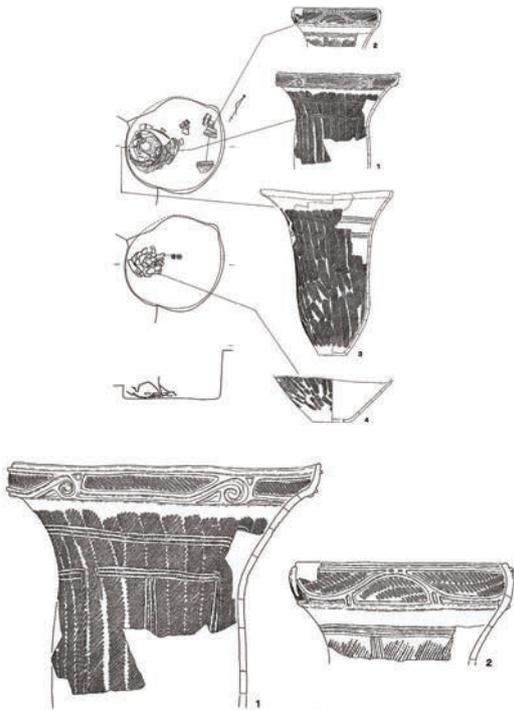
図版277
東庄町
神代夏方遺跡 SK30

2/2



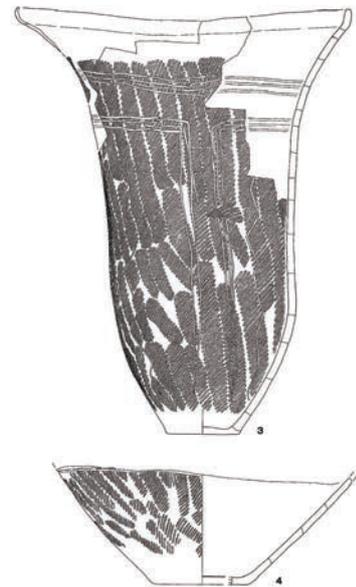
図版289
横芝町
東長山野遺跡 135土壌

1/2



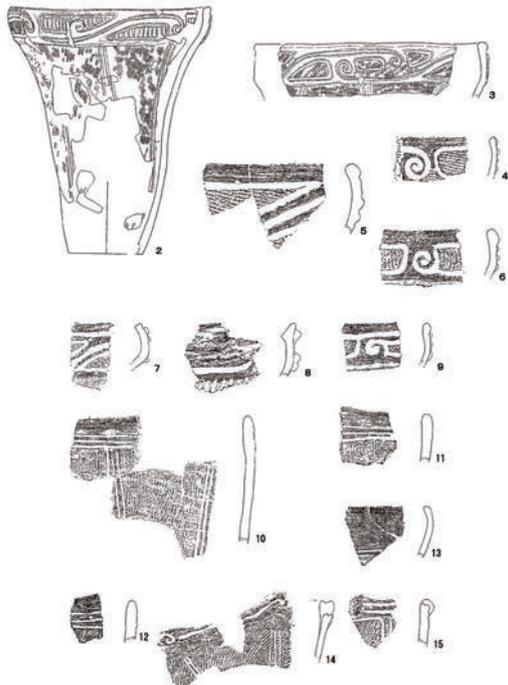
図版290
横芝町
東長山野遺跡 135土壌

2/2



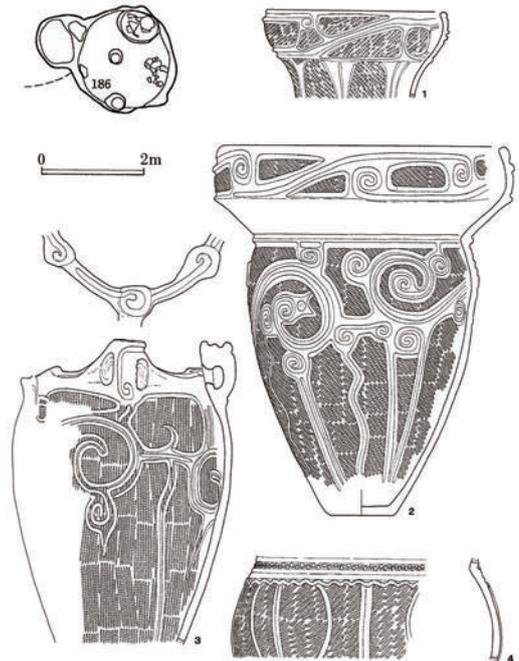
図版205
佐倉市
吉見稻荷山遺跡 第5次1号住居跡

2/6



図版97
市原市
草刈貝塚 B区186号址

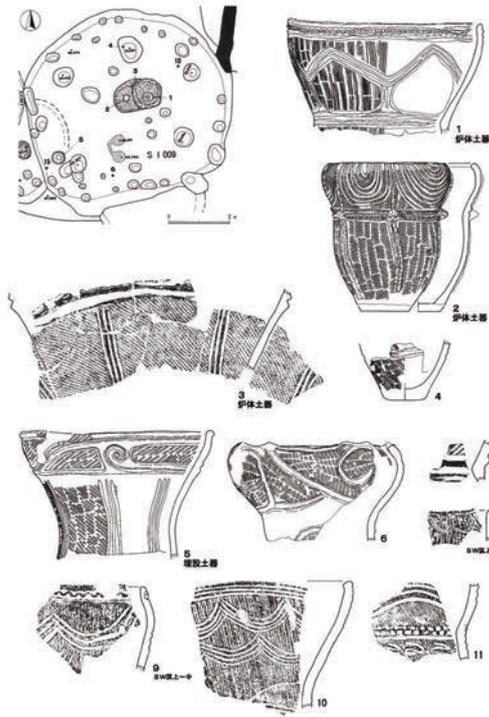
1/1



第3図 加曾利E I (3)

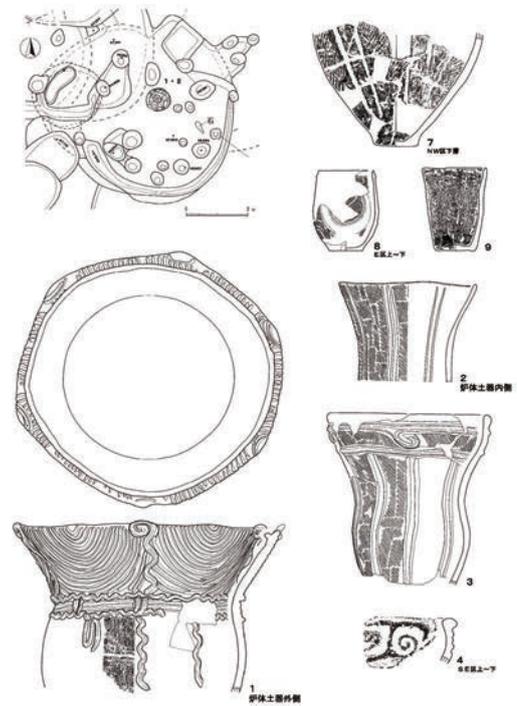
図版140
木更津市
伊豆山台遺跡 S1009

1/2



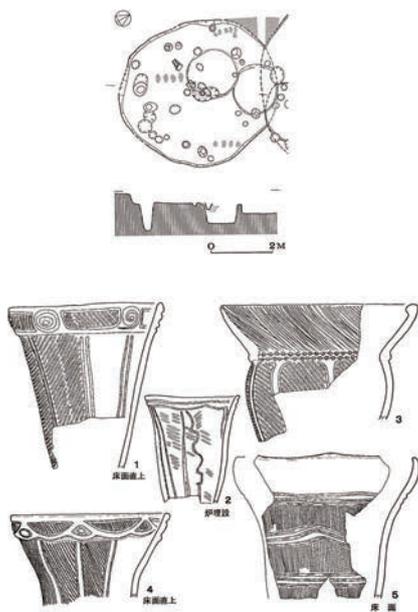
図版143
木更津市
伊豆山台遺跡 S1027

1/2



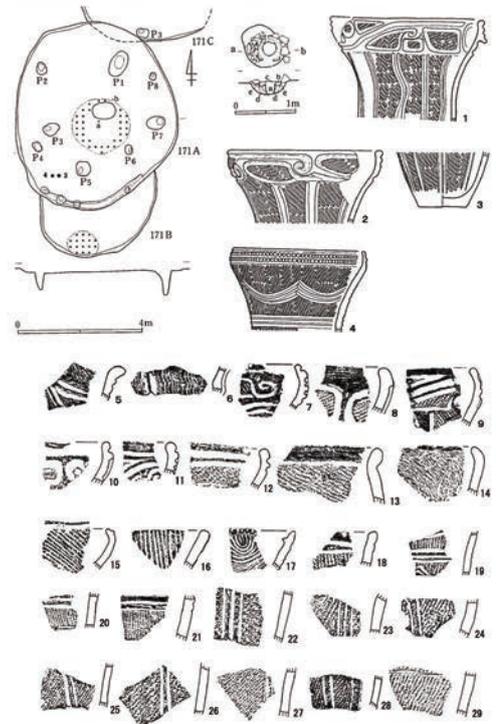
図版26
松戸市
子和清水貝塚 213号住居跡

1/1



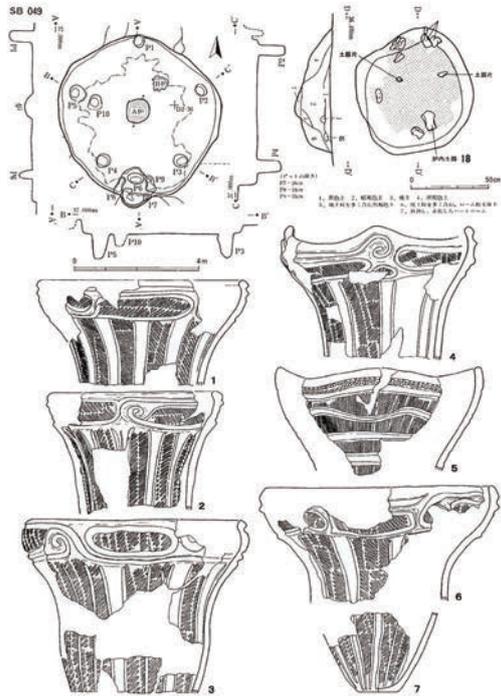
図版93
市原市
草刈貝塚 B区171A号址

1/2



図版84
市原市
有吉北貝塚 SBO49住居跡

1/3



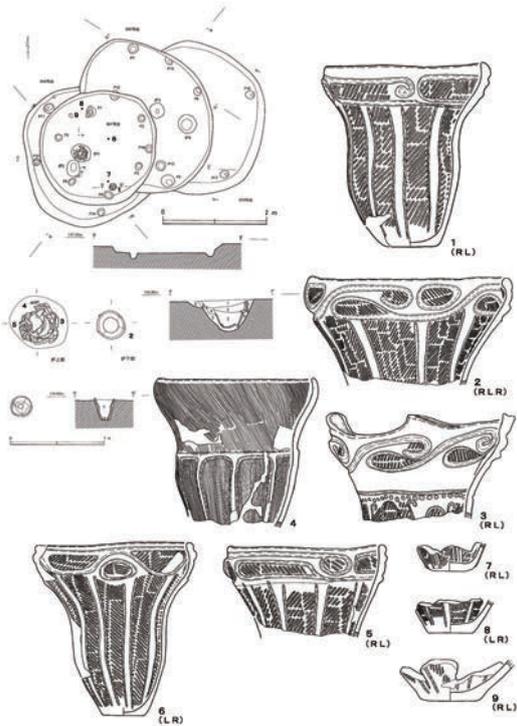
図版32
松戸市
子和清水貝塚 241号住居跡

1/1



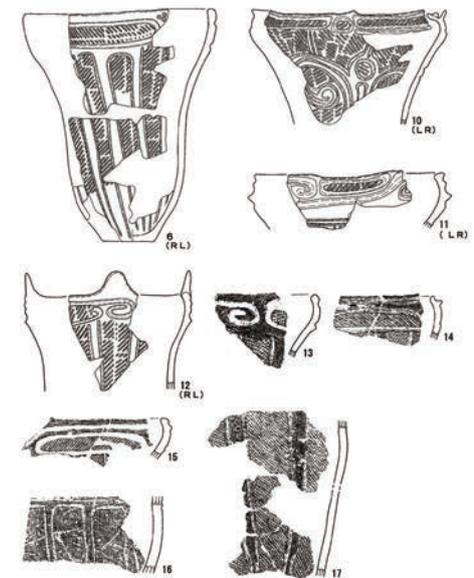
図版162
木更津市
台木A遺跡 007号住

1/1



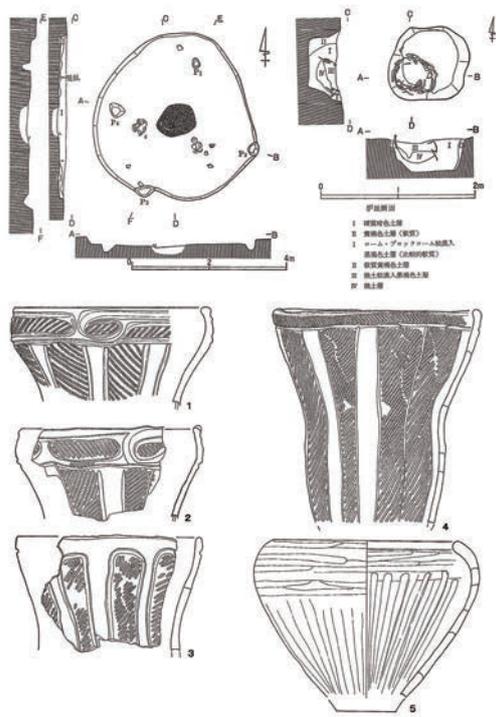
図版161
木更津市
台木A遺跡 004号住

2/2



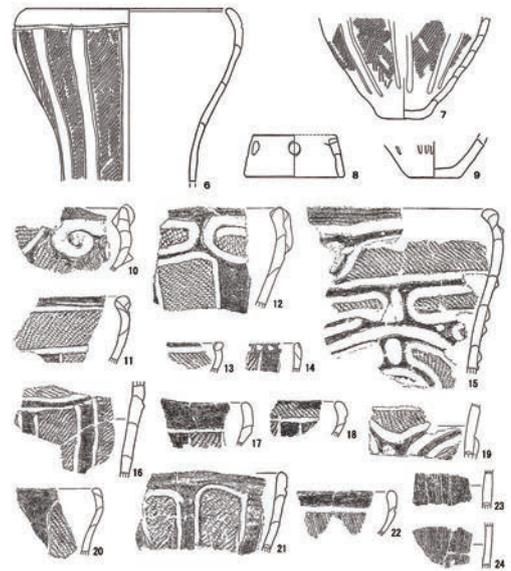
図版74
千葉市
中野僧御堂遺跡 第6号住居址

1/2



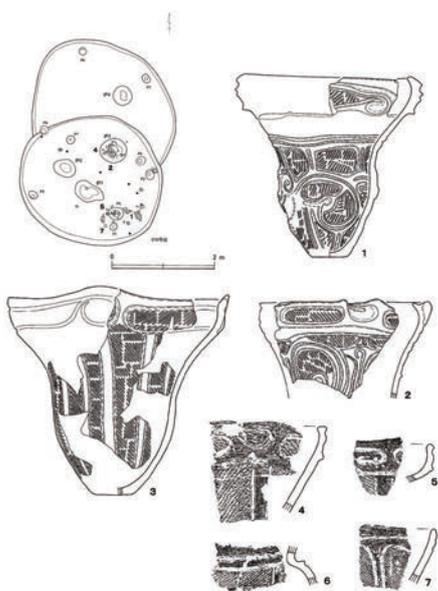
図版75
千葉市
中野僧御堂遺跡 第6号住居址

2/2



図版164
木更津市
台木A遺跡 019号住

1/1



図版33
松戸市
子と清水貝塚 876号土坑

1/1

